

分科会名	第4分科会 研究課題「組織・運営に関する課題」
研究主題	非常変災等における危機管理体制と教頭の役割 ～武雄市内小・中学校での危機管理体制の見直しを通して～
提言者	所属：武雄市地区教頭会 学校名 武雄市立川登中学校 氏名：森 義孝
紙面協議のまとめ	<p>【発表内容についての所感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年、令和元年と佐賀県で大雨が続き、しかも武雄市では、北方、朝日、橘などで多くの被害が発生した。このような中で、今回の「非常変災等における危機管理体制と教頭の役割」の研究は、すばらしい取組であると感じている。特に、非常変災時の児童生徒の安全確保のために、危機管理マニュアルの見直し、組織での情報伝達の流れ、校内引き渡し計画等、武雄市全体の取組として行われているところがすばらしいと思う。県内小中学校ごとの状況（施設・設備等）は異なると思うが、非常に参考になる資料となっている。 ・ここ数年、自然災害（集中豪雨等）による児童生徒の登下校時の安全確保が重要な課題となってきた。過去の大雨の際に、保護者に引き渡し場所の確保、保護者の送迎ルートの確認、保護者への連絡等に大変手間取ったことを覚えている。今回の報告を読み、どこの学校でも起こる大きな課題であり、学校が全職員で確認すべき重要なことだと感じた。 ・予想を超える災害に備えた実践の一つとして、引き渡し訓練の提案、検討、共通理解が、市教頭会でできたことは意義あることだと感じた。実際に、大雨時に保護者への引き渡しを行ったときに、本研究の重要性を痛感した。普段使用しないフェンス入口を開放しての一方通行、児童の待機場所の確保、職員の役割分担等を的確に行ったことで、スムーズに保護者への引き渡しを実施することができた。教頭が中心となり、防災教育計画や危機管理マニュアルの見直し、職員の役割分担、保護者・地域（区長、消防団等）との関わりを明確にしておく必要性が実感できた。 ・本研究に携わる中で、実際に保護者への引き渡しを実施する場面が2回あった。学校によっては、一方通行の形を取れないことがあり、その場合に児童の待機場所をどこにするか、保護者の駐車場をどこにするか、職員の役割分担をどうするか等様々な問題があり、教頭のマネジメントの重要性を痛感した。今回の研究では、非常変災時の教頭としての役割が明らかになったので、今後の参考になると思われる。
研究部長より	<ul style="list-style-type: none"> ・非常変災時における児童生徒の引き渡しに関わる判断の基準や校内引き渡し計画等は、これまで各学校の作成に任されていた。しかし、今回この研究課題を掲げ、市教頭会全員で研究したことで、武雄市内で引き渡しに関わる判断の基準や危機管理マニュアルに含める内容を統一できたことは大きな進歩であると感じた。 ・引き渡し訓練については、校区によっては小中連携で同日に実施できたところもあるが、学校規模や立地条件等によっては実施が難しい学校もあり、市内小中学校全体での実施については課題が残った。 ・武雄市が力を入れている「防災に強いまちづくり」に関しては、市役所の防災・減災課の方を講師に、職員研修や児童への出前講座を実施した。このことを機に、職員はもちろん児童の危機管理意識が高まった。 <p style="text-align: right;">（武雄市立山内西小学校 熊本 由美子）</p>